

開講科目名 / Course	国際看護比較論	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second, Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子	
担当教員名 / Instructor	桑野 紀子、篠原 彩	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	本講義では、世界の疾病構造の現状と課題について学び、課題に関する世界的な取り組みや看護職の役割について理解を深めることを目的とする。 諸外国の保健・医療・福祉システムのあり様や課題について学び、日本との比較を通して日本の課題についても理解する。母子保健や精神保健といった各分野のグローバルな状況について、看護の役割と関連づける。また、訪日・在留外国人や海外に渡航する日本人の健康課題と看護の役割について学ぶ。	
到達目標	1. 諸外国の保健・医療・福祉の課題や、日本との相違点について説明できる。 2. グローバル社会で暮らす文化社会的背景が多様な人々について、健康リスクや保健医療福祉に関する課題を述べることができる。 3. 海外に渡航・在住する日本人の健康支援について、看護の役割を述べるができる。 4. 海外の保健医療専門職との協働に関して、自己の課題を述べるができる。	
DPとの対応	1. 心豊かな人間性・倫理観、3. 看護の基盤となる専門知識・技能、4. 連携協働・リーダーシップ、5. 地域性・国際性、6. 探求心と創造力	
授業計画	01. 国際看護の主要概念、疾病負荷（Global Burden of Diseases, GBD）、DALYからみた世界の健康問題 02. 世界の保健医療における人的資源 03. 難民の現状と健康課題 04. グローバルメンタルヘルス 05. ウイメンズヘルス、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ 06. 開発途上国における国際協力の実際 07. 外国人労働者の健康課題：在留外国人労働者の健康課題を通して国際看護を考える 08. 多様な文化・社会・言語背景をもつ在留外国人・訪日外国人の看護の実際	
その他の授業の工夫	・講義で得た知識を事例に適用し、適宜小グループでディスカッションする機会がある。 ・海外での看護実践について話を聞き、質疑応答を通して理解を深める講義を含む。 ・世界の保健医療情報は原文（英語）でも伝え、英語での情報収集能力向上を図る。	
時間外学修	・事前学修：次回の学習内容について、テキストの該当範囲や配布資料を用いて予習する（7h）。 ・事後学修：レポート作成等を通して学修内容について理解を深めるとともに、国際機関のホームページ等から周辺情報を収集して関連情報を収集する力を培う（15h）。	
評価方法と評価割合	平常点（発言等の積極性、グループワーク等における貢献度）：30% 数回の演習テーマに関する課題レポートまたは小テストの合計：20% 定期試験：50%	
テキスト	看護の統合と実践 国際看護学（メジカルフレンド社）	
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]（医学書院） 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3]（医学書院） 看護テキスト NICE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために（南江堂） Global Applications of Culturally Competent Health Care: Guidelines for Practice（Springer）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	桑野紀子：看護師、助産師、保健師、篠原彩：看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	看護師、助産師、保健師、海外でのNGO活動
実務経験をいかした教育内容	国内外での看護実践をふまえ、グローバル社会における看護の実際について事例を通して学生に指導する。	